

目指す学校像	人生 100 年時代の土台づくりとして「世界と向き合い、ゆめをもち、発信力のある子」を育成するためにチームで支援する学校
--------	--

重点目標	1 20年後のエージェンシーを育む真の学力の育成 2 ゆめが安心して語り合える居場所を保証する教育支援・相談体制・生徒指導の充実 3 地域と児童が共に元気になるコミュニティ・スクールの新展開 4 誰もが居心地のよい (Well-Being) 学校をつくる教職員の資質向上と働き方改革の推進
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標			年度評価				実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○校内研究で PBL 型授業研究を進め、学びの楽しさを実感できる場面が増えてきた。 ○R5 全国学力・学習状況調査の結果は前年度より大きく上がった。 ○R5 市学習状況調査では各教科平均点が 12 項目中 7 項目 (58.3%) で市を上回った。 ○「外国のことをもっと知りたい」と思う割合は 6 学年中 4 学年 (66.7%) が市平均より低い。 〈課題〉 ○短時間で中・長文の文章を読み取り、問題の意味を理解したり、100 文字程度の文章で表現したりする力に課題がある。 ○学びの楽しさを実感できない児童への支援が必要である。 ○外国への関心が学年によってばらつきがある。	・学ぶ楽しさを実感する探究型授業の実現とワクワクする教科横断的な教育課程の編成 ・主体的・対話的で深い学びに必要な基礎学力の向上	①全職員が PBL 型授業、探究型授業の研究をし、管理職が全学級を計画的に参観し、ICT を活用し、学びの楽しさを実感する授業改善が進んでいるかの視点で指導・評価する。 ②夢に繋がるワクワクする事業を実施 (金融経済教育/プログラミング教育/天体観望会/SDGs 特別授業/外部講師の招致/世界に目を向ける活動)	①市学調で教科の「好き」の割合が同一集団で 17 項目中 6 項目で昨年度以上になったか (昨年度 6 項目が下がった)。 ②市学調で「外国のことをもっと知りたい」が全学年、市平均と同程度となっているか。	①市学調で教科の平均が昨年度より向上したか (昨年度は 12 項目中 6 項目が市平均を下回った)。 ②スタサプ、ドリルパーク等の学習アプリを個に応じた実施したか。				
2	〈現状〉 ○いじめの早期発見、早期対応、組織対応の取組は定着してきた。 ○市学調の「自分には良い所がある」の質問に、6 学年中 3 学年で市平均を下回った。 ○学級で安心して夢が語れる児童は 48.7% である (4 月現在) 〈課題〉 ○成功体験を多く経験させ、自己肯定感を高める必要がある	・安心できる環境づくりと一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に合わせた校内体制の充実 ・自己肯定感を高める取組	①生徒指導・教育相談に係る校内委員会で ICT を活用し、組織的な支援、相談を具体的に出し合い、実践する。 ②保護者に向けて懇談会や HP、各種発行物等を通していじめに関するメッセージを発信し、いじめ対応に関する方針について周知を図る。	①教員アンケートでいじめや長欠に関する校内委員会での組織的な対応で、肯定的な回答が 100% を維持できたか。学校評価 (保護者) でいじめ対応に関して肯定的回答昨年度以上 (87.4%)。 ②学校評価アンケートで保護者、児童のいじめに関する項目が昨年度 (保護者 84.7%、児童 95.7%) と同程度以上となったか。	①市学調で「自分には良い所がある」の項目で全学年が 90% 以上か。(昨年度 6 学年中 3 学年が 90% 以下) ②Sola ルームの活用実態や居場所として効果があったか (個別案件)。				
3	〈現状〉 ○学校運営協議会の熟議で、地域の教育資源である「東大宮音頭復活プロジェクト」を教育課程に位置付け、全校で取り組んでいる (3 年目) ○SSN が再始動 3 年目でお互いの活動の見える化を進めている ○学校の様子をブログを通して定期的に地域に発信している 〈課題〉 ○子どもたちが主体的に地域に関わろうとするまでには至っていない。 ○自治会等の加入者の高齢化が進んでいる	・児童が地域に主体的に係る支援 ・目指す児童像を地域全体で共有するための ICT の用	①CS 主導の東大宮音頭復活プロジェクトと特活部とがコラボし、児童主体のプロジェクトチームを発足させ、地域の盆踊り等のイベントに積極的に係れるよう自治会との橋渡しを行う。 ②SSN の活動が共有できるホームページを充実させ、各団体が学校応援団として機能する。	①2 地域以上の自治会等イベントにて本校児童による運営場面があったか (新規)。 ②SSN による学校支援活動が新規に行われたか。保護者アンケートで SSN、CS の認知度 (昨年度 77%、82%) の肯定的評価が昨年度以上となったか。	①ブログアクセス数が 12 月までで 40,000 件以上となったか (昨年 12 月まで 24,509 件) ②保護者の意見をまとめ、校内で検討し、次の行事等に生かしているか。また内容によっては早急に対応しているか。				
4	〈現状〉 ○ICT の活用や探究的な学びについて、意欲的な教員が多い。 ○業務改善が進み、Well-Being の意識が高まっている。 〈課題〉 ○成績処理に負担感を感じている職員が多い。 ○時間コストを意識している職員は少ない	・教職員の ICT 活用能力の向上と子どもたちと向き合う時間を確保するための働き方改革	①指導要領、通知表の記入方法を検討し、成績処理の負担感を軽減する。 ②事務室主導で給与と在校時間から時給を算出し、時間コストを意識した業務を行う。	①成績処理の負担感が減少しているか (昨年度 50% の職員が負担に感じている) ②時間コストを意識して働くようになった、または在校時間が減った、が 80% 以上だったか。(新規)					